

「京都プロジェクト（仮称）」に係る環境影響評価方法書に対する京都市環境影響評価審査会委員からの主な意見等

令和 4 年 1 2 月 1 3 日に開催した令和 4 年度第 2 回京都市環境影響評価審査会での意見及び意見を踏まえた答申案を取りまとめた。

環境要素等		審査会での主な意見	答申案
全 般 的 事 項	環境要素	○ 本事業は、都市再生特別措置法により、容積率等の配慮がされているので、それが負荷増加につながらないような工夫がなされるよう、最新の動向に合わせて柔軟な検討がなされることを期待する。	○ 本事業が容積率等の緩和を提案予定であることを踏まえ、それが環境負荷増加につながらないよう、最新の知見に基づいて環境負荷の回避・低減に向けた検討を行うこと。
	調査手法	○ 廃棄物や温室効果ガスの発生量、地下水の調査及び影響予測方法など、現時点で調査や予測等の内容を明らかにできない事項について、一覧を作成し、事業スケジュールとの対応や調査等の実施時期、図書への記載時期等を示すことはできないか。	○ 現時点で調査・予測・評価を実施できないなどのため環境への影響を明らかにできない環境要素については、今後行う調査・予測・評価の内容及びその実施時期等について事業スケジュールとの対応も含めて明らかにすること。
	その他	○ キャンパスプラザは学生を始め、人の出入りの多い施設であるが、安全確保をどう考えるのか。現状でも車が多いので、配慮いただきたい。 ○ 工事車両の他、バス車両が近隣病院の救急搬送機能に影響が及ばないように配慮する必要がある。	○ 工事車両や施設関連車両の通行において、近隣施設利用者や近隣の配慮が必要な施設に対して、適切な安全確保や配慮を行うこと。
大気質		○ 解体に伴い発生する粉塵に関する配慮を記載してほしい。	○ 既存建築物の解体に伴い発生する粉塵に関する配慮について検討し準備書に記載すること。

環境要素等	審査会での主な意見	答申案
地下水の水質及び水位	○ 工事内容の具体化にあわせ、地下水への影響予測を的確に行うことが重要である。 ○ 深く掘削する場合、工事中の周辺地下水位への影響が懸念され、影響範囲をいかに小さくするかが重要である。 ○ 近隣ならびに市内の比較的大規模あるいは深度の工事例を、本事業の参照にされたい。 ○ 準備書作成時点で予測の不確実性が大きい場合は、不確実性を補うため、工事計画の具体化に応じた適切な調査等の計画を策定し準備書に記載することが望ましい。 ○ 近隣での工事の類似例や不確実性への対応について、準備書に記載いただきたい。 ○ 病院やホテルで地下水を利用されている場合があるので慎重に調査されるとよい。	○ 工事内容の具体化に合わせて地下水への影響予測を的確に行い、工事中の地下水への影響が最小限となるよう対策を講じること。また、予測の際には、近隣での工事例や同程度の深度での工事例を参照すること。 ○ 地下水への影響について、準備書作成時点で予測の不確実性が大きい場合には、工事計画の具体化に応じた適切な事後調査計画を策定し、準備書に記載すること。 ○ 周辺施設での地下水利用の状況について、慎重に調査すること。
生態系	○ 建物の壁面に野鳥が激突しないような配慮をお願いしたい。	○ 建築物の壁面のデザインに当たっては、バードストライク等の野鳥への影響を低減できるよう配慮すること。
人と自然との 触れ合いの活動の場	○ 屋上緑化について、提出された環境影響評価の図書に記載されていても、建物の耐水性などの問題で実現しないケースが散見されるので、耐水性なども考慮した設計をし、必ず実現してほしい。	○ 設計の具体化に当たっては、屋上緑化を適切に実施できるよう、耐水性なども考慮すること。

環境要素等	審査会での主な意見	答申案
廃棄物・ 温室効果ガス 等	○ 今回のプロジェクトでは大量の発生土が出てくると予想され、それがきちんと処分あるいは有効利用されないと環境への影響は大きいと推測される。 ○ 廃棄物と温室効果ガスにつき、全体でどれくらいの排出量が予想されていて、どのような対策でどの程度減少するのかが比較できるように記載されていないと評価ができないのではないかな。 ○ 都市再生特別措置法に基づく取組であることから、京都市の重点施策である気候変動対策と整合するよう、具体的に記載していただきたい。 ○ バイオマスに関して、美観と廃棄物対策の観点から、植樹された樹木から出る落ち葉や剪定枝の活用方法を検討いただきたい。 ○ 「GHGプロトコル」におけるスコープ3を検討し、材料調達やサプライチェーンでの排出量についても考慮していただきたい。	○ 工事によって発生する廃棄物及び残土等について、環境に十分配慮した有効利用及び処分の方法を検討すること。 ○ 廃棄物や温室効果ガス等の環境負荷については、排出量と削減効果について定量的な予測及び評価を行うよう検討し、準備書に記載すること。 ○ 温室効果ガスの排出量の予測や削減対策については、京都市の気候変動対策と整合するよう検討し、準備書に記載すること。 ○ テナントが排出する廃棄物や、植栽から発生する落ち葉や剪定枝をエネルギー等として活用することも検討するなど、最新の知見に基づいた対策を検討すること。 ○ 温室効果ガスの削減については、材料調達などを含めたサプライチェーンとしての排出量についても考慮すること。